

2009 年 雪崩安全セミナー開催要領

2008.10.15 (社)日本雪氷学会雪崩分科会

2009 年の雪崩安全セミナー(旧名称・山岳スキー場雪崩安全セミナー)は以下のように開催したいと考えます。

2008 年 9 月の(社)日本雪氷学会雪崩分科会の報告および総会の中で、研究者と登山者のお互いのもつ長所を学び合い弱点を克服することで、雪崩事故や災害の現地調査を安全に行うことが大切であるとしました。すでに北海道では登山者と研究者が共同で十勝岳での雪崩事故現場の調査を行いました。本州においても現地調査の目的を考えるなら、研究者と登山者の相互協力は安全性を高め、目的を果たすことが可能となります。そこで今回は学会主催の雪崩研修会の前日に観測の実習と安全確保に必要な行動技術を身に付けたいと提案するものです。参加人数は最大でも 15 名とします。

雪崩安全セミナーの内容は「雪崩発生斜面における安全の確保と積雪観測」とし、以下の 3 つのテーマについて行うものです。

安全確保	講師	中山建生・大河内延明
積雪観測	講師	山口 悟・竹内由香里ほか
安定度評価	講師	尾関俊浩・若林隆三ほか

(講師は都合により変更する場合があります。)

ではそれぞれの内容についてもう少し具体的にお知らせします。 は雪崩発生の現場に至る行動能力で、稜線からの下降、あるいは末端からの登高(登ること)、側面からのトラバースなどです。実際の講習は 30 度から 40 度位の斜面をロープで確保して下降するとすれば、ロープの結束、送り出し、ブレーキのシステム、アンカーの設置または立木の利用などを学びます。現場に到着しても自らの確保を必要とすればピレーを取ることで、安定した場所の設営、整地の作業が求められます。 は積雪の層構造、雪温、密度、硬さ、せん断強度などの測定方法について学びます。 は の測定結およびコンプレッションテストなどから、斜面の積雪安定度を評価する方法について学びます。

アプローチのスキー技術、スノーシューの技術についてはあるものとの前提で行います。移動の際に技術の点検は出来ませんがこれに時間が取れませんので了承願います。同様にピッケル、アイゼンの技術についてもこのセミナーでは行えません。講習場所が適していないことと時間がないことが理由です。別の講習会の機会にと考えています。

さて前述した範囲での体験講習でも各自以下の装備品が必要となります。冬山用ハーネス(目的に応じたハーネスを選ぶ)と環つきカラビナ(2枚以上)、そして長短シュリングが個人の装備となります。なお、共同装備品となるロープ 50m や確保用のシュリング他および積雪観測用具は主催者が用意します。